西小千谷市街地地区都市構造再編集中支援事業

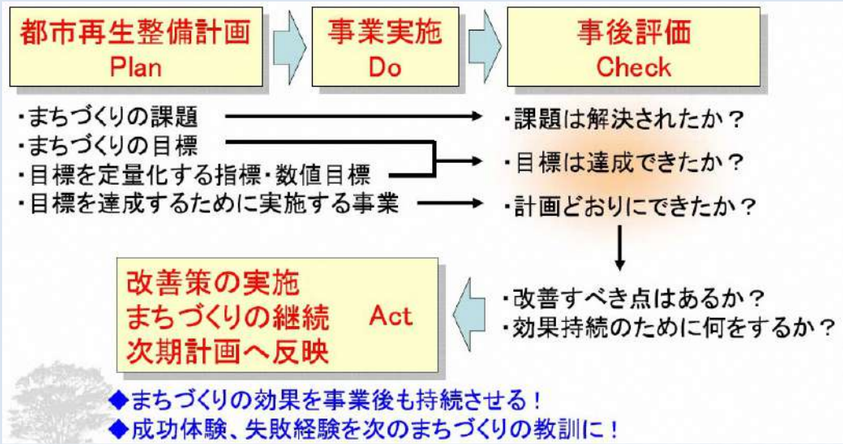
事後評価資料

１．事後評価制度の概要	Ｐ　１
２．都市再生整備計画の概要	Ｐ　２
３．成果の評価（数値目標の達成状況の整理）	Ｐ　５
４．実施過程の評価	Ｐ　８
５．効果発現要因の整理	Ｐ　９
６．今後のまちづくり方策の検討	Ｐ１０
７．フォローアップ計画	Ｐ１０

令和８年１月時点

小千谷市 にぎわい交流課共創推進係

１．事後評価制度の概要

事後評価の位置づけ	事後評価はＰＤＣＡサイクルによる事業評価制度の一環として実施されるもので、その後のまちづくりに活かすための作業。 
事後評価の目的	事業がもたらした**成果等を客観的に診断**して、**今後のまちづくりを適正な方向に導く**こと、及び**事業の成果を住民にわかりやすく説明**することを目的とする。
事後評価の内容	**①　まちづくりの目標の達成状況等の確認！** まちづくりの目標の達成状況、および実施過程の検証を行う。 **②　今後のまちづくり方策の検討！** まちづくりの目標の達成状況を踏まえ、事業効果の発現要因を整理し、今後のまちづくり方策を検討する。 **③　事後評価のチェック！** 事後評価の透明性・合理性・客観性を担保するために、評価結果を市民に公表し、意見を適切に反映すると共に、学識経験者を含む第三者で構成される「評価委員会」を開催し、その審議を経る。
評価委員会の目的	**①　事後評価等が適切に遂行されているかの確認と、意見を頂く。** **②　今後のまちづくり方策等について意見を頂く。**

事後評価の実施フロー

- **方法書の作成**（評価項目の指標数値や実施状況等を計測･確認するための方法を設定）
- **成果の評価**（事業の実施状況、指標の達成状況等）／**実施過程の評価**（官民連携、まちづくり体制の状況）
- **効果発現要因の整理**（指標の改善と事業や実施過程の関連性、成功要因、失敗要因等の整理）
- **今後のまちづくり方策の検討**（事業終了後のまちづくり方策を作成）
- **事後評価原案の作成**（関係課を交えた事業確認、評価の検証）
- **事後評価原案の公表**（事後評価原案の公表、意見徴収、意見の反映）
- **評価委員会による審議**（本事業の事業評価に係る審議）
- **事後評価結果のとりまとめ** ➡ **国に報告 ➡ 公表**（公表期間は１年以上）
- **フォローアップの実施**（指標を確定値にする） ➡ **国に報告 ➡ 公表**（公表期間は１年以上）

２．都市再生整備計画の概要

事業概要：中心市街地にある旧病院跡地に誘導施設「図書館等複合施設」を共創型ＰＰＰにより整備し、人の流れをまちの中心部に誘導するとともに、当該施設とまちなかとの連携した施策により回遊性を高め、中心市街地における賑わいの再創出を図る。

従前の課題

- 求心力を高める拠点の整備
- 中心市街地を中心とした回遊性の向上
- 求心力を高める拠点の波及効果を受け止める環境づくり

目標

「賑わい・交流・憩いの創出」

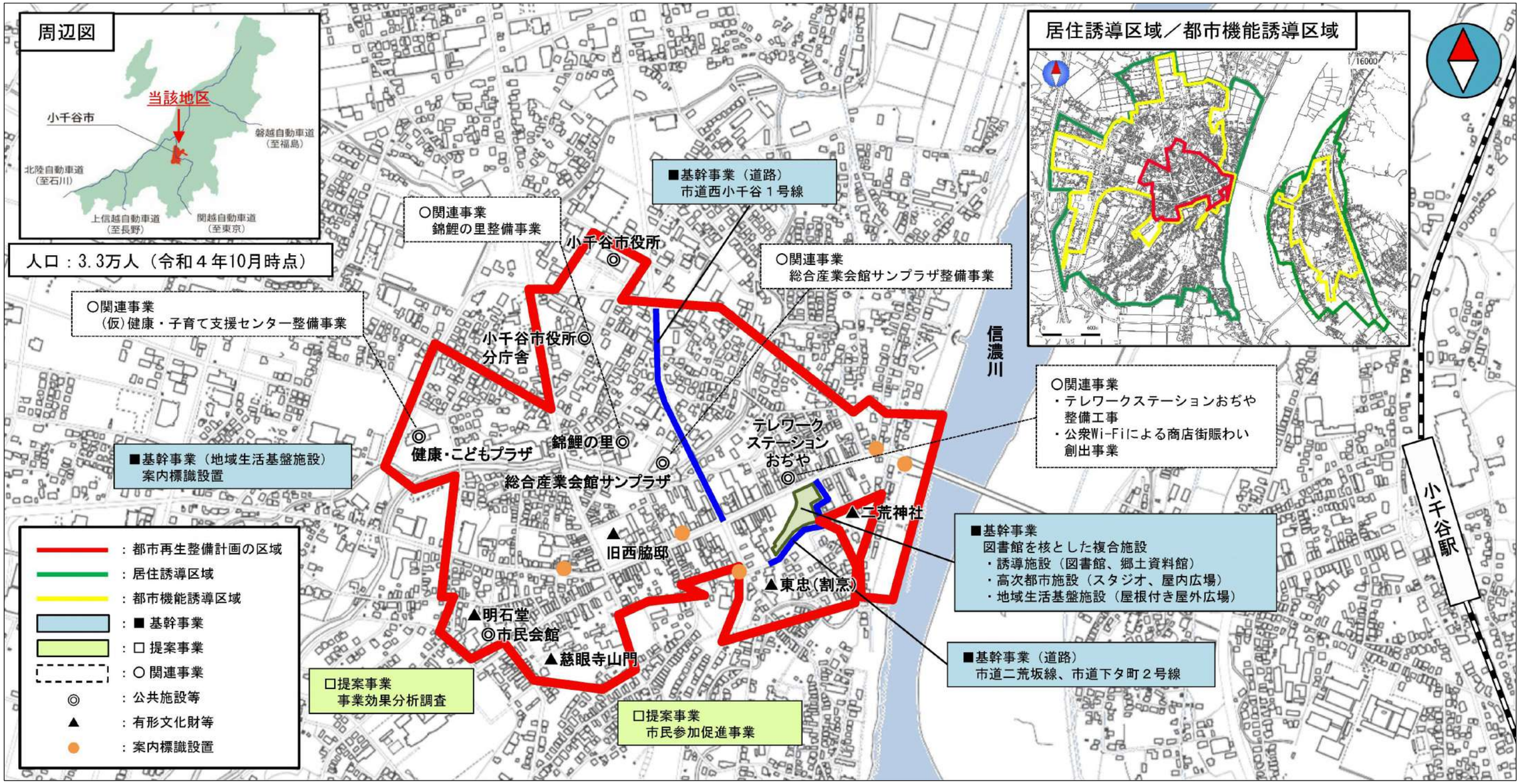
- 市立図書館を核とする複合施設整備による中心拠点づくり
- 中心市街地へ人の流れを誘導し、市街地内での回遊性を向上

目標を定量化する指標

指標１　市立図書館（西脇順三郎記念室含む）利用者数　（人/年）

指標２　休日の歩行者数　（人/日）

指標３　まちなかと連携したイベント活動への参加者数　（人/年）



（２）交付対象事業について

事業種別		事　業　名	最終計画（第６回変更）				完成状況		
			事業期間		事業費	事業内容	完成	完成見込み	備　　考
			開始年度	終了年度	（百万円）				
基幹事業	道路	市道西小千谷１号線 （(都)平沢町山本線）	R5	R5	200.0	歩道のカラー舗装化 Ｌ＝880m、Ｗ＝16m（歩道は片側3m）	●		
		市道二荒坂線 市道下夕町２号線	R4	R4	64.0	市道二荒坂線 道路付替 Ｌ＝100m、Ｗ＝5m 市道下夕町２号線 道路拡幅 Ｌ＝120m、Ｗ＝4m	●		
	地域生活基盤施設	図書館を核とした複合施設 （屋根付き屋外広場）	R1	R6	624.3	延床面積：388.9㎡ 共用・外溝部分（面積按分）：663.8㎡	●		
		案内標識設置	R5	R5	15.0	標識板：5基	●		
	高次都市施設	図書館を核とした複合施設 （スタジオ） （地域交流センター）	R1	R6	957.5	延床面積：595.6㎡ 共用・外溝部分（面積按分）：1,018.3㎡	●		
		図書館を核とした複合施設 （屋内広場） （子育て世代活動支援センター）	R1	R6	767.2	延床面積：478.7㎡ 共用・外溝部分（面積按分）：815.7㎡	●		
	誘導施設	図書館を核とした複合施設 （図書館）（教育文化施設）	R1	R6	1,761.8	延床面積：1,097.4㎡ 共用・外溝部分(面積按分)：1,873.4㎡	●		
		図書館を核とした複合施設 （郷土資料館）（教育文化施設）	R1	R6	1,179.9	延床面積：734.0㎡ 共用・外溝部分(面積按分)：1,254.6㎡	●		
提案事業	事業活用調査	事業効果分析調査	R6	R6	3.0	調査業務委託料		●	令和6～7年度に実施
	まちづくり活動推進事業	市民参加促進事業	R2	R6	71.7	外部ファシリテーター謝礼 市民ワークショップの企画・運営	●		
関連事業		総合産業会館サンプラザ整備事業	H30	R1	22.0		●		
		錦鯉の里整備事業	H30	H30	9.0		●		
		(仮)健康・子育て支援センター 整備事業	H30	R1	300.0		●		
		テレワークステーションおぢや 整備工事	R3	R3	39.0		●		
		公衆Wi-Fiによる 商店街賑わい創出事業	R4	R4	32.4		●		

道路／市道西小千谷１号線　その１
（(都)平沢町山本線）

道路／市道西小千谷１号線　その２
（(都)平沢町山本線）

道路／市道二荒坂線

道路／市道下夕町２号線

地域生活基盤施設／屋根付き屋外広場
（ホントカ。）

地域生活基盤施設／案内標識設置
標識板（わたや本店･天満宮付近）

地域生活基盤施設／案内標識設置
標識板（商工会議所前付近）

地域生活基盤施設／案内標識設置
標識板（公衆トイレ前付近）

高次都市施設／地域交流センター（ホントカ。）
左：響アンカー　　中：演アンカー　　右：発アンカー

高次都市施設／地域交流センター（ホントカ。）
左：和アンカー　　中：食アンカー　　右：創アンカー

高次都市施設／子育て世代活動支援センター（ホントカ。）
左：子アンカー　　右：屋内広場

誘導施設／図書館（ホントカ。）

誘導施設／郷土資料館（ホントカ。）
左：西脇順三郎ライブラリー　　右：郷土資料展示室

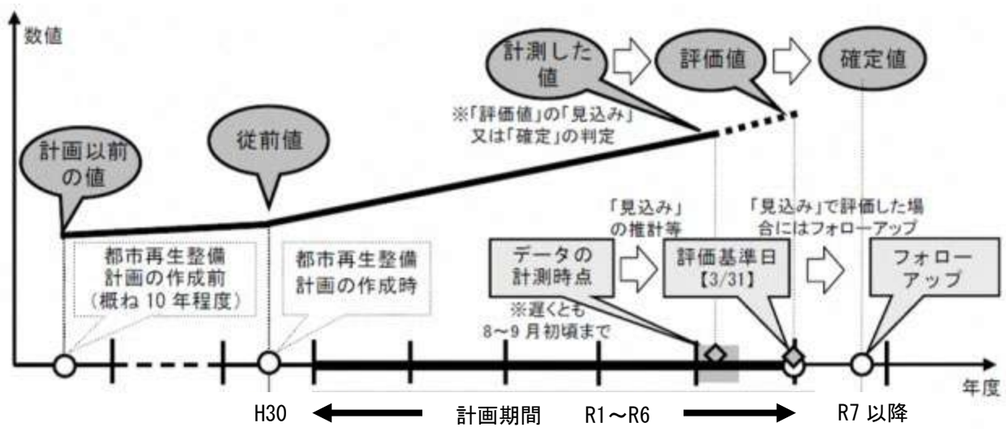
３．成果の評価（数値目標の達成状況の整理）

指標	単位	従前値（基準年度）	目標値（基準年度）	評価値（評価基準年度）			目標達成度
指標１ 市立図書館（西脇順三郎記念室含む）利用者数	人/年	70,500 （H29）	168,000 （R６）	351,400 （R６）	確 定		○
					見込み	●	
指標２ 休日の歩行者数	人/12ｈ	341 （R1）	820 （R６）	298 （R７）	確 定	●	×
					見込み		
指標３ まちなかと連携したイベント活動への参加者数	人/年	0 （H29）	1,240 （R６）	15,340 （R６）	確 定		○
					見込み	●	

■目標達成度の評価の基準

目標達成度の評価の基準	達成度
評価値が目標値を上回った場合	○
評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	△
評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合	×

■評価基準日の考え方



指標１：市立図書館（西脇順三郎記念室含む）利用者数

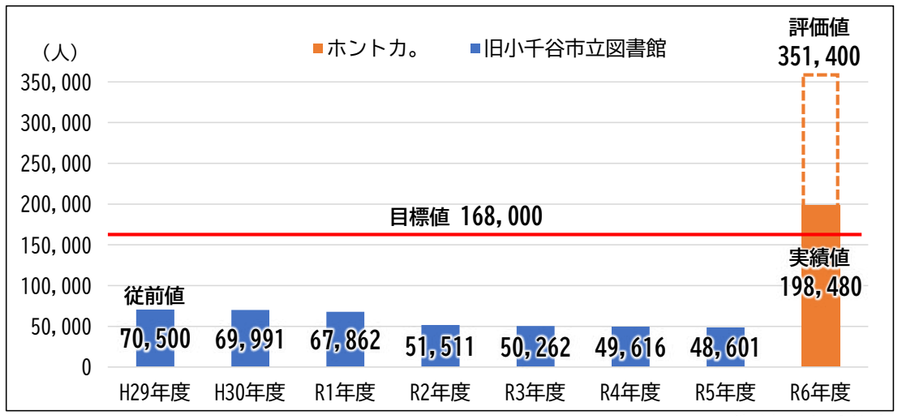
従前値（H29）	目標値（R６）	評価値（R６）	目標達成度	１年以内の達成見込
70,500 人/年	168,500 人/年	351,400 人/年	○	―

指標の定義	誘導施設である市立図書館に設置予定の BDS(ブックディテクションシステム)により算出
評価値の求め方	新たな図書館を核とする複合施設である小千谷市ひと･まち･文化共創拠点「ホントカ。」は令和 6 年 9 月 28 日にオープンしているため、オープン以降の利用者数を令和 6 年度全体の利用者数に換算して評価値（見込み値）とする。

目標達成度等に関する検証

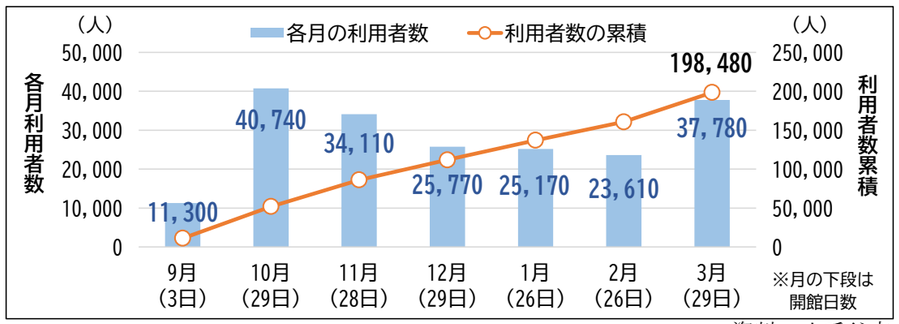
【目標達成度】

「ホントカ。」の利用者数を計測した結果、令和 6 年度の実績値(オープンから 170 日間)は 198,480 人となった。これを平成 29 年度～令和 5 年度までの平均開館日数 301 日/年を用いて令和 6 年度全体に換算した結果、351,400 人と目標値 168,000 人を上回ったため、目標達成度は「○」とする。



資料：小千谷市

（参考）令和６年度の月別利用者数



資料：小千谷市

指標２：休日の歩行者数

従前値（R1）	目標値（R６）	評価値（R７）	目標達成度	１年以内の達成見込
341 人/12h	820 人/12h	298 人/12h	✕	無

指標の定義	中心拠点区域内における歩行者通行量調査（4 地点の平均値）により算出
評価値の求め方	歩行者通行量調査の実施時点で交付対象事業は全て完了しているため、計測した歩行者数を評価値（確定値）とする。

目標達成度等に関する検証

【目標達成度】

中心拠点区域内における休日の歩行者通行量を計測した結果、298 人となり目標値 820 人を下回った。また、従前値 341 人も下回っているため目標達成度は「×」とする。

調査地点別の傾向を見ると、地点①・③は従前値と同等であるが、地点②・④は従前値から大きく減少している。また、大人と高校生以下に分けて傾向を見ると、大人は全ての地点で減少しているが、高校生以下は地点①・②・③で増加している。

通行量が減少した要因は、居住人口の減少（西小千谷地区の人口は R1 年の 6,224 人から R7 年には 5,631 人に減少(減少率は約 9.5%))、商店街の店舗数の減少などによる回遊性の低下が大きな要因として挙げられ、加えて、「ホントカ。」の利用者の多くが車利用であることが挙げられる。

【調査日・調査時間】
従前値：R1.7.28(日) 7:00～19：00　　天候：晴、最高気温 31.3℃(長岡)
評価値：R7.7.13(日) 7:00～19：00　　天候：晴、最高気温 33.3℃(長岡)

調査地点	通行量		
	従前値	評価値	増減率
①旧わんパーク前	316	319	0.9%
②本町2交差点	601	471	-21.6%
③商工会議所前	210	205	-2.4%
④錦鯉の里駐車場入り口	240	197	-17.9%
4地点の平均値	341	298	-12.6%

調査地点	種別	通行量		増減率
		従前値	評価値	
①旧わんパーク前	大人	280	267	-4.6%
	高校生以下	36	52	44.4%
②本町2交差点	大人	563	396	-29.7%
	高校生以下	38	75	97.4%
③商工会議所前	大人	199	167	-16.1%
	高校生以下	11	38	245.5%
④錦鯉の里駐車場入り口	大人	214	176	-17.8%
	高校生以下	26	21	-19.2%

【１年以内の達成見込み】

目標値を大幅に下回っており、これが今後１年間で改善することは考えにくいため、１年以内の達成見込みは「なし」と判断する。

（参考）平日の歩行者数

休日と同様、評価値が従前値を下回る結果となった。

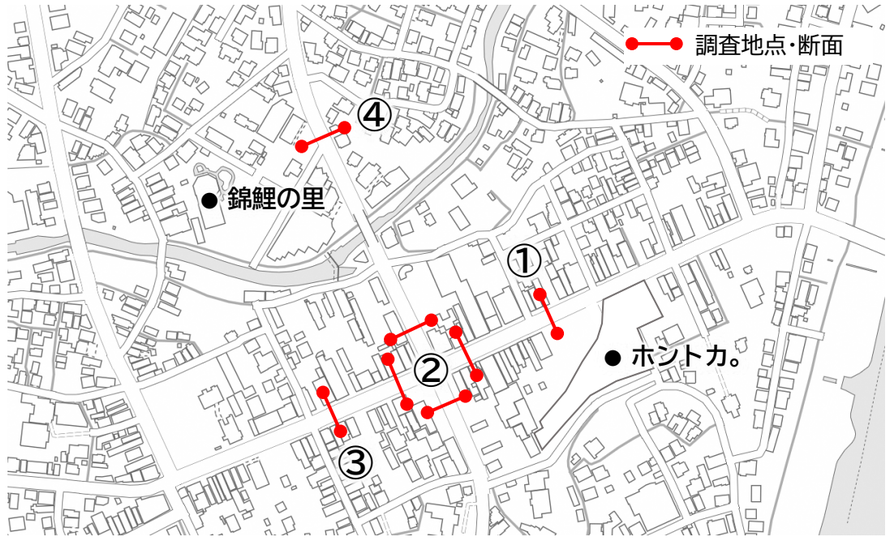
調査地点別の傾向を見ると、全ての地点で減少しているが、地点①は比較的減少率が低い。また、大人と高校生以下に分けて傾向を見ると、全ての地点で双方とも減少している。

通行量が減少した要因は、前述の休日の要因に加え、調査地点が通学路の一部となっている小千谷小学校の児童数が減少していることも要因の一つと推察される(全校児童数は R1 年の 849 人から R7 年には 645 人に減少（減少率は約 24%））。

【調査日・調査時間】
従前値：R1.7.17(水) 7:00～19：00　　天候：晴、最高気温 29.7℃(長岡)
評価値：R7.7.17(木) 7:00～19：00　　天候：曇、最高気温 33.4℃(長岡)

調査地点	通行量		
	従前値	評価値	増減率
①旧わんパーク前	647	521	-19.5%
②本町2交差点	1261	832	-34.0%
③商工会議所前	905	652	-28.0%
④錦鯉の里駐車場入り口	499	342	-31.5%
4地点の平均値	828	586	-29.2%

調査地点	種別	通行量		増減率
		従前値	評価値	
①旧わんパーク前	大人	502	401	-20.1%
	高校生以下	145	120	-17.2%
②本町2交差点	大人	905	632	-30.2%
	高校生以下	356	270	-24.2%
③商工会議所前	大人	543	437	-19.5%
	高校生以下	362	215	-40.6%
④錦鯉の里駐車場入り口	大人	357	251	-29.7%
	高校生以下	142	91	-35.9%



指標３：まちなかと連携したイベント活動への参加者数

従前値（H30）	目標値（R６）	評価値（R６）	目標達成度	１年以内の達成見込
0 人/年	**1,240 人/年**	**15,340 人/年**	**○**	**ー**

指標の定義	誘導施設と商店街や公的施設等との連携したイベントの参加者数により算出
評価値の求め方	新たな図書館を核とする複合施設である小千谷市ひと･まち･文化共創拠点「ホントカ。」は令和６年９月 28 日にオープンしているため、オープン以降の令和６年度開催のイベント参加者数を評価値（見込み値）とする。

目標達成度等に関する検証

【目標達成度】

誘導施設と商店街や公的施設等との連携したイベントの参加者数を計測した結果、令和 6 年度の参加者数(オープンから約半年間)は 15,340 人となり、目標値 1,240 人/年を上回ったため、目標達成度は「○」とする。

【まちなかと連携したイベント】

日　付	イベント名	参加者数（人）
R6.9.28(土)	「誕生祭」（ホントカ。主催）	5,500
R6.11.3(日)	「ホントカ。市」（ホントカ。主催）	1,580
R6.12.22(日)	「婦人服とお花のある暮らし」（ホントカ。主催）	1,260
R7.2.22(土) ～R7.3.31(月)	特別展「小千谷のひなまつり～道具から見る交流・自治・利他」（ホントカ。主催）	7,000
合　計		15,340

資料：小千谷市

（参考）まちなかと連携したイベント詳細

「誕生祭」の様子

地元商店街ブース出店、
本町商店街の余白を活用したマルシェイベント「Holiday Popup Shop」との連携

資料：小千谷市

「ホントカ。市」の様子

市制施行 70 周年・小千谷青年会議所創立 65 周年記念協働事業「おぢや市民全員集合！」（会場：小千谷市役所駐車場）との連携

資料：小千谷市

「婦人服とお花のある暮らし」の様子

本町商店街・平成商店街の店舗との連携

資料：小千谷市

特別展「小千谷のひなまつり～道具から見る交流・自治・利他」の様子

「小千谷の雛祭りにおける絵紙飾りの習俗用具及び関連資料」が市の有形民俗文化財に指定されたことを記念した特別展示

資料：小千谷市

定性的な効果発現状況

小千谷市ひと･まち･文化共創拠点「ホントカ。」の各アンカーやフロートは、オープン以降、市内外問わず多くの個人・団体に利用されており、市民等の活動拠点として機能している。

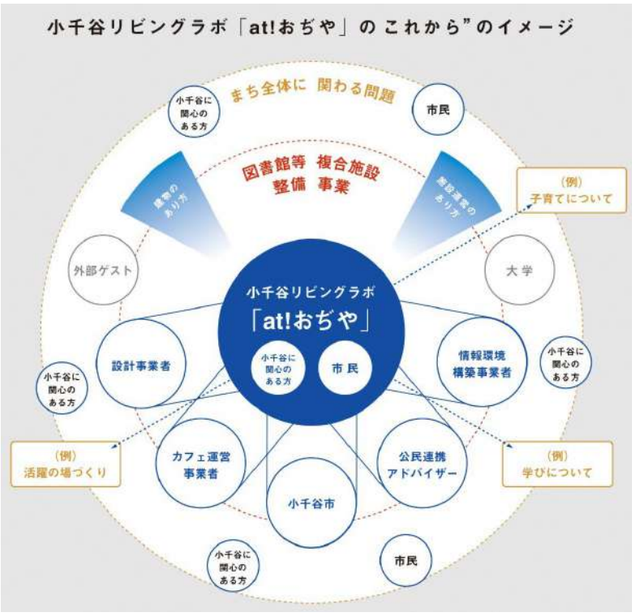
以下の表は、これまでに専有利用された件数と利用人数である。

区　分		件　数	利用人数
和アンカー	市内	6	380
響アンカー	市内	189	1,896
	市外	21	112
演アンカー	市内	81	1,823
	市外	2	130
創アンカー	市内	3	41
	市外	1	40
発アンカー	市内	37	37
	市外	45	45
	ワークショップ	7	53
屋上	市内	2	1,045
その他エリア	市内	15	4,177
	市外	30	1,085

4．実施過程の評価

持続的なまちづくり体制　小千谷リビングラボ「at！おぢや」

「ホントカ。」の整備に伴い、施設の企画・設計段階から「共創」を重視し、施設の活用方法や地域の価値・課題などについて市民、行政、また本事業に関心のある多様な人々が共に考えていく場として、令和 3 年 3 月に“小千谷リビングラボ「at！おぢや」”を立ち上げた。



官民連携による取組　小千谷リビングラボ「at！おぢや」

小千谷リビングラボ「at！おぢや」では、“ホントカ。”の計画段階から、官民連携のもと以下の取組を進めてきた。

開催日	内　容	
R2.12.6(日)	＜プレイベント＞市民参加プラットフォームを育てるためのシンポジウム「まちと公共施設の未来を創造する」	
R3.3.21(日)	第１回小千谷リビングラボ（仮称） 病院跡地整備事業の概要、リビングラボのあり方や愛称を検討	
R3.4.9(金) ～R3.5.6(木)	小千谷リビングラボ愛称市民投票	
R3.5.8(土)	小千谷リビングラボ愛称「at！おぢや」決定	
R3.5.8(土)	小千谷リビングラボ「at！おぢや」第2～16回	設計提案内容紹介、ワークショップ等
R3.6.19(土)		設計検討プロセス等の説明、利用体験のマッピング等
R3.7.22(木)		まちから見た施設の素材を想像しよう！等
R3.10.10(日)		基本設計内容の説明等
R3.12.18(土)		設計内容等の説明、施設プログラムの検討等
R4.2.12(土)		新潟工科大学生との連携プロジェクトの発表等
R4.5.22(日)		設計者による設計説明、「at！おぢや」の振り返り等
R4.7.27(水)		実施設計、ゲストトーク等
R4.10.2(日)		「食」アンカーと「発＋作」アンカーの活用について考えよう！
R4.12.4(日)		「和＋会」「展」「趣」それぞれのアンカー活用について考えよう等
R5.2.12(日)		持ち寄った写真で語り合い、地域アーカイブを体験しよう！
R5.5.14(日)		施設の運営方針についての共有・対話、施設の愛称検討等
R5.7.30(日)		施設の本の配架についての共有等
R5.10.30(月)		座談会「カフェ×ひと・まち・文化～交差点をつくる～」等
R5.12.17(日)		ワークショップ　まちを楽しもう！実践編
R6.3.16(土) ～6.3.17(日)	図書館閉館イベント「THANK YOU 図書館 HELLO ホントカ。」	
R6.7.13(土)	グランドオープンに向けたイベントを企画し準備しよう！ ホントカ。とバーチャル空間をつなぐ仕掛け「言の葉の栞」を体験しよう！	
R6.11.3(日)	＜わたしたち＞でホントカ。の使い方を考えよう！	
R7.3.2(日)	市民企画イベントの作戦会議をしよう！(ものづくり企画、音楽と本の企画)	

５．効果発現要因の整理

目標と指標の関連性	「賑わい・交流・憩いの創出」							
	1. 市立図書館を核とする複合施設整備による中心拠点づくり		✓		✓		✓	
	2. 中心市街地へ人の流れを誘導し、市街地内での回遊性を向上				✓		✓	
目標達成度	○：*評価値が目標値を上回った場合* △：*評価値が目標値に達していないが、近年の傾向より改善している場合* ×：*評価値が目標値に達しておらず、近年の傾向よりも改善が見られない場合*		指標1 市立図書館（西脇順三郎記念室含む）利用者数 ○		指標2 休日の歩行者数 ×		指標3 まちなかと連携したイベント活動への参加者数 ○	
種別		事業名・箇所名	指標改善への貢献度	貢献度の考え方	目標未達成への影響度	影響度の考え方	指標改善への貢献度	貢献度の考え方
交付対象事業 基幹		道路:市道西小千谷1号線((都)平沢町山本線) 完成	－	・令和6年9月に「ホントカ。」がオープンしたことが直接的に貢献したと考え『◎』 ・道路や案内看板が整備され、「ホントカ。」へのアクセス性が向上したことが間接的に貢献したと考え『○』 ・市民参加促進事業により、「ホントカ。」開業への期待感が高まったこと、施設運営の担い手が育成されたことが間接的に貢献したと考え『○』	×	・「ホントカ。」がオープンしたものの、商店街や周辺施設への回遊が充分に創出されなかったことなどを要因に目標未達成となったが、「ホントカ。」付近で高校生以下の通行量の増加が見られるため、指標改善に貢献したと考え『△』 ※目標未達成の外的要因として、居住人口の減少、「ホントカ。」利用者の多くが車利用であることが考えられる。	－	・令和6年9月に「ホントカ。」がオープンしたことが直接的に貢献したと考え『◎』 ・市民参加促進事業により、「ホントカ。」開業への期待感が高まったこと、施設運営の担い手が育成されたことが直接的に貢献したと考え『◎』
		道路:市道二荒坂線・市道下夕町2号線 完成	○		×		－	
		地域生活基盤施設:図書館を核とした複合施設(屋根付き屋外広場) 完成	◎		△		◎	
		地域生活基盤施設:案内標識設置 完成	○		×		－	
		高次都市施設:図書館を核とした複合施設(スタジオ)（地域交流センター） 完成	◎		△		◎	
		高次都市施設:図書館を核とした複合施設(屋内広場)(子育て世代活動支援センター) 完成	◎		△		◎	
		誘導施設:図書館を核とした複合施設(図書館)(教育文化施設) 完成	◎		△		◎	
		誘導施設:図書館を核とした複合施設(郷土資料館)(教育文化施設) 完成	◎		△		◎	
	提案	事業活用調査:事業効果分析調査 完成見込み（R7）	－		－		－	
		まちづくり活動推進事業:市民参加促進事業 完成	○		×		◎	
関連		総合産業会館サンプラザ整備事業 完成	－		×		－	
		錦鯉の里整備事業 完成	－		×		－	
		(仮)健康・子育て支援センター整備事業 完成	－		×		－	
		テレワークステーションおぢや整備工事 完成	－		×		－	
		公衆Wi-Fiによる商店街賑わい創出事業 完成	－		×		－	

指標改善への貢献度（達成度が○の場合）

◎　*事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した*
○　*事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した*
△　*事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった*
－　*事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない*

目標未達成への影響度（達成度が△×の場合）

××　*事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった直接的な原因となった*
×　*事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった間接的な原因となった*
△　*目標は達成していないが、指標の改善には貢献した*
－　*事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない*

総合所見	「ホントカ。」やアクセス道路、案内看板が整備されたことが主な要因となって目標を達成した。	「ホントカ。」が整備され、高校生以下の歩行者数は増えたものの、居住人口の減少などもあった中で、商店街や周辺施設等を含めた面的な回遊の創出には至らなかったことが原因となって目標未達成となった。	「ホントカ。」の整備や市民主体で様々なイベントが行われたことが主な要因となって目標を達成した。
今後の方針	今後も「ホントカ。」が市民の生活や活動の拠点として機能するよう、使いやすい施設運営などに取り組み、更なる利用促進を図る。	「ホントカ。」と商店街や周辺拠点施設等との連携を強め、中心市街地を中心とした人々の回遊性を高める。	今後も中心市街地の拠点として、市民をはじめとする様々な関係者と連携したイベントを持続的に実施する。

６．今後のまちづくり方策の検討

都市再生整備計画の課題	達成状況		継続・改善の基本方針	想定される主な事業
■求心力を高める拠点の整備	達成されたこと	・小千谷市ひと･まち･文化共創拠点「ホントカ。」が令和6年9月28日にオープンし、多くの利用者が訪れるとともに、市民や各種団体の活動拠点としても利用されている。 ・また、オープン以降は、市民主催を含む様々なイベントが開催されており、多くの参加者を集めている。	**①「ホントカ。」の利用促進** ・今後も図書館や郷土資料館、各アンカーの利用促進に向けて、各種企画や使いやすい施設運営に取り組む。	**①-1　「ホントカ。」の利用促進に向けた企画･運営の継続・充実**
	残された課題	－	－	－
	新たな課題	－	－	－
■中心市街地を中心とした回遊性の向上	達成されたこと	・「ホントカ。」の整備により、高校生以下の休日の歩行者数が増加した。	**②商店街をはじめとした「ホントカ。」周辺エリアの活性化** ・集客促進に向けて、商店街等との機能強化に取り組む。	**②-1　空き店舗対策（チャレンジショップ等）** **②-2　「ホントカ。」や周辺拠点施設と連携したイベントの実施**
	残された課題	・「ホントカ。」には多くの利用者が訪れているが、近隣の商店街や周辺の拠点施設（錦鯉の里など）等との回遊性の創出にまでは至っていない。	**③周辺拠点施設との連携の強化** ・錦鯉の里や総合産業会館サンプラザ、テレワークステーションおぢや、旧西脇邸などの周辺施設との連携を高める。	**③-1　施設間の往来を促すイベント等の実施** **③-2　施設相互の情報発信**
	新たな課題	・空き店舗が増加した。	**④公共交通の利用促進** ・複数の路線バス系統が乗り入れる交通結節機能を活かして、路線バスと AI オンデマンド交通「イコテ」による利用を促す。	**④-1　小千谷市地域公共交通計画に基づく施策の推進（路線バスのＰＲ、待合環境の整備等）** **④-2　ＡＩオンデマンド交通「イコテ」の利用促進**
■求心力を高める拠点の波及効果を受け止める環境づくり	達成されたこと	・「ホントカ。」と周辺の拠点施設を結ぶ歩道の高質化や、案内標識が設置され、回遊しやすい環境が整備された。 ・これからの「ホントカ。」やまちを様々な立場の関係者が共に考え・つくる場所として、小千谷リビングラボ「at！おぢや」が設立され、「ホントカ。」の計画段階から官民連携の取組が進められてきた。	**⑤官民連携による取組の継続・充実** ・「ホントカ。」の整備効果を中心市街地全体に波及するため、官民連携による取組を継続・充実する。	**⑤-1　小千谷リビングラボ「at！おぢや」を核とした官民連携の取組の推進**
	残された課題	－	－	－
	新たな課題	・西小千谷地区の人口減少や小千谷小学校の児童数の減少が中心市街地の歩行者通行量に影響を与えており、人口減少に伴う中心市街地の求心力の低下が今後も懸念される。	**⑥中心市街地への人口誘導** ・中心市街地に人口を誘導することで様々な活動を喚起し、中心市街地の求心性を高める。	**⑥-1　小千谷市立地適正化計画に基づく施策の推進（移住･定住の促進、子育て支援、歩きたくなるまちづくり、安全･安心な居住環境の形成等）**

７．フォローアップ計画

評価値が見込み値である指標１、指標３について、右記のとおりフォローアップを行う。

指　標	実施時期	実施方法
指標１「市立図書館利用者数」	令和８年４月	令和 7 年度の利用者数を市立図書館に設置しているＢＤＳ（ブックディテクションシステム）を用いて計測する。
指標３「まちなかと連携したイベント活動への参加者数」	令和８年４月	令和 7 年度に実施された市立図書館とまちなかが連携したイベント活動への参加者数を計測する。